二〇二三年度　田園調布学園大学
全学部全学科専攻　共通

国語　入学試験問題

一般選抜（個別試験型）全学統一日程

受験番号

（注意）
一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。
二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄にかならず記入してください。
三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。
四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてもかまいません。
五、試験時間は六〇分です。

氏名

（一）次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちが言葉を使う目的の一つは情報伝達である。体験を言葉にして伝えることで、それを体験していない人にも「その体験がどのようであるか」が伝わるのだ。

たとえば、他人から「あそこに新しくできたラーメン屋は味噌ラーメン専門店だったよ」と聞けば、実際に行かなくても、その店に行けば味噌ラーメンが食べられる、豚骨ラーメンや醤油ラーメンは食べられない、と知ることができる。こうした情報は自分が何を食べるかを　A　するための材料となるだろう。それを参考にすることで、ラーメンが食べたいときに「あの店に行ってみよう」と思えるし、ラーメンは食べたいけど味噌ラーメンの気分ではないときには「あの店ではない」と　A　できるようになるのだ。

さらに、もしラーメン店について伝えてきた人が味に関して信頼できる人だったら、「おいしかった」「他では味わえない濃厚さ」（あるいは、「おいしくなかった」「どこにでもあるような味だった」）といった評価も参考にすることができる。その情報に基づいて、おいしいラーメンが食べたいならそこに行こう（または、あの店はおいしくないから避けよう）と　A　できるのだ。

以上のように、言語化された他人の体験について知ることで、自分では体験していない物事についての情報が得られ、その情報に基づいて自分の行動を決定することができる。私たちが言葉を使う目的の一つは、このようにして情報を共有し、行動のための材料を増やすことである。

こうした目的は「赤」など①幅のある言葉でも果たすことができる。たとえば、「新しく発表されたパソコンの色は赤だった」と聞いたとしよう。それを聞いただけでは、どういった色合いの赤なのかはわからない。だがそれでも、「緑だったら買おうと思っていたけど、赤ならやめとくか」と判断できる。同様に、「あの店のラーメンのスープはさっぱりしている」と聞いたら、具体的にどんな「さっぱり」なのかわからなくても、「今日は　B　したものを食べたいから別の店に行こう」と決めることができる。言葉による a アラい区別の情報も判断材料になるのだ。

②気をつけなければならないのは、言葉の目的は体験の代わりとなることではない、という点である※。たとえば、「濃厚で、コクがあって、口に入れてすぐコショウのにおいが鼻を抜け、後味の風味はすぐに消え……」というように言葉を重ね、特定の料理の味にしか当てはまらない表現ができたとしよう。その表現を耳にしたからといって、実際に味が感じられるわけではない。だが、言葉が体験の代わりにならないことは、言葉の欠点ではない。というのも言葉の役割は、その味を体験しに店に行くかどうかを決めるうえでの判断材料を与えることだからだ。そして、その役割は先ほどの長い表現で十分果たせるだろう。体験の代わりを言葉に求めるのは、言葉の目的を理解していない③筋違いな願望なのである。

言語化によって得られる利益は、他人から判断材料をもらえるだけではない。これとは別に、言語化した当人にとっても利益となるものがある。それは、自分の体験を明確にする助けとなるというものだ。

例として、いま食べているカレーと先週食べたカレーの違いを比べる場合を考えてみよう。しかも、言葉を使わずに比較してみるとする。いま食べているカレーはまさに味がしているが、先週食べたカレーの味はいまはしない。先週のカレーはどうだっただろうか。それを思い出そうとするときに、再び口のなかに味が広がってくるわけではない。何かぼんやりとしたイメージは浮かんでくるかもしれないが、非常に頼りないように思われる。いまのカレーと何か違うとはわかっても、どう違うのかまではうまく理解できないだろう。さらに、先週食べたカレーと先々週ま

た別の店で食べたカレーの違いとなると、違いはよりb曖昧になってくる。

だが、言葉を使えば区別をつけるのは簡単だ。「いま食べているカレーは、ルーはサラサラして、しびれるような辛さ、ヨーグルトの酸味、玉ねぎの甘味が感じられる」「先週のカレーは、ルーはドロドロで、トマトの酸味が感じられ、最初はそこまで辛くないのだが後を引く辛さがあった」といったように、言葉にすれば違いが明確になる。④さまざまな言葉が使えるようになると、その分だけ多くの区別がつけられるようになるのだ※。

感じた味や香りを言葉にする作業は、ソムリエを目指す人が読む本ではよくcスイショウされている※。ソムリエはさまざまなワインの味や香りを記憶して区別する必要があり、その能力を養うためには、ワインを飲んだときに感じた香りや味をメモするのが良いそうだ。言葉にすることでさまざまなワインの違いを整理でき、また、メモを見返すことで「あのワインとこのワインが似ていると感じたのはこういう共通点があったからなのか」といったことも発見できる。自分が感じた味の共通点や相違点を、より明確な根拠から理解できるようになるのだ。

以上のように、体験を言語化することで体験が明確になる。現在体験している味と過去に体験したさまざまな味の違いは、言葉による区別を利用することで明らかになるのだ。逆に、体験を言語化しないと、その体験が他の体験とどう違うのかもうまく理解できない。言語化は体験の特別さを奪うものではなく、特定の体験の特別さを際立たせてくれるものだと言えるだろう。

ここで、判断材料と体験の明確化の違いをより明確にしておこう。確かに、自分の体験を明確にするための言語化によって、他人に判断材料を提供する表現が生まれる場合もある。先ほどの二つのカレーの説明は他人の参考になるものだ。しかし、自分の体験の明確化が必ず他人の役に立つわけではない。というのも、他人に嫌な印象を与える言葉が使われる場合もあるからだ。

たとえば、ソーヴィニヨン・ブランという白ワインの香りは、よく「猫のおしっこ」と表現される。その香りの主成分はメルカプトペンタノンという有機硫黄化合物であり、「アクの強い、グリーン感をともなったような、長ネギの青い部分をつぶしたような、しつこいにおい」と言われる※。他にも、ワインの味や香りについて解説した本を読むと、「腐葉土」「濡れた犬」「灯油」「汗」「ホコリ」「カビ」「スカンク」「タール」など、ぎょっとする言葉がいくつか見つかる。もちろん、「リンゴ」「レモン」「洋梨」「ナッツ」といった良い印象を与えるものもあるが、それだけではないのだ。

こういった悪い印象の言葉を初めて聞いた人は、飲食物の喩(たと)えにそれはどうなのかと⑤眉をひそめるかもしれない。どのワインにしようか悩んでいるときに、ソムリエや店員から「このワインは猫のおしっこのような香りがします」と言われたらどうだろうか。そのワインがどんなにおいしくて高く評価されていても、飲む気が失われてしまうだろう。その言葉のせいで、おいしいワインを味わう機会が失われてしまうのだ。

では、⑥なぜワインの香りを「猫のおしっこ」など嫌なものに喩えるのか。実際のところ、「猫のおしっこ」はdコウバイ客に向けた言葉ではないようだ。サントリーが運営するウェブサイトの「ワインの基礎知識」には、ソーヴィニヨン・ブランは「フレッシュなe柑橘とハーブのアロマの爽やか系」と表記されている。私の近所の酒屋にあったポップには「春の爽やかさを思わせる辛口白ワイン」と書かれていた。やはり、「猫のおしっこ」と書くと売れそうにないからだろう。ここからわかるのは、ワインの仕事に携わる人にふさわしい言葉と、ワインを飲むだけの人にふさわしい言葉は違うということだ※。

どういう言葉が使われるかは、何を目的としているかに左右される。ワイン関連の仕事をする人たちのあいだで「猫のおしっこ」が頻繁に使われる理由は、おそらく、いろいろなワインの味や香りを区別する必要があるからだ。それに応じて多くの言葉を使わなければならず、良い印象を与える言葉だけでは足りないのではないだろうか。

さらに、「猫のおしっこ」という喩えの簡潔さも利点となる。そもそも私たちが比喩を用いる理由の一つは、字義通りの言葉では説明が長くなってしまうものを簡潔に表すことである※。もし「猫のおしっこ」という比喩を使わないでソーヴィニヨン・ブランの香りを表現すると、どうなるだろうか。まず、「猫のおしっこ」などの動物系の言葉は、強ければ不快だが、わずかな場合は深みや複雑さや熟成感を与える香りを指すために用いられているという。なかでも「猫のおしっこ」は（前述の通り）「アクの強い、グリーン感をともなったような、長ネギの青い部分をつぶしたような、しつこいにおい」とされている※。しかし、ソーヴィニヨン・ブランの香りを話題にするたびに毎回こういった情報を説明するのは骨が折れる。これに対し「猫のおしっこ」は、そうした長い情報を圧縮した簡潔な表現として使うことができるのだ。

さらに、簡潔にするだけでなく、嫌な言葉で簡潔にすることにも理由があると思われる。というのも、嫌な言葉は印象に残るからだ。ワインの味を「猫のおしっこ」という一見ぎょっとする言葉で表現すれば、それが強く記憶に残る。嫌な言葉を使うことにも、味の体験を明確に記憶に留めることができるという利点があるのだ。

（源河亨『「美味しい」とは何か』より）

注　原文には、※の箇所に根拠となる文献の引用などについて注が付されているが、右の文章ではその部分を省略した。

問一　二重傍線部a～eについて、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二　傍線部③「筋違いな」、⑤「眉をひそめる」について、本文中の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

③筋違いな

ア　常識に反する
イ　わがままで自分勝手な
ウ　きちんとしていない
エ　りくつに合わない
オ　間違いだらけの

⑤眉をひそめる

ア　眉をつり上げて怒る
イ　心配で暗い顔つきになる
ウ　不快の気持ちを顔に出す
エ　大いに疑問を感じる
オ　興味や関心を持つ

問三　空欄Aには同じ言葉が入る。本文中から最も適当な漢字二文字の言葉を選び、入れなさい。

問四　傍線部①「幅のある言葉」とはどのような言葉か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「赤」以外にも「青」「緑」「黄」「茶」など、「色」を表す言葉の種類は他にもたくさんある。

イ　「赤」と言っても、濃い赤、薄い赤、トマトや苺、ポストや信号の赤など、指し示す意味に広さがある。

ウ　「赤」の場合、「赤い」「赤かった」「赤くない」「赤ければ」「赤かろう」などと、様々な言葉の形がある。

エ　「赤いパソコン」以外にも「赤い花」「赤い信号」「赤い血」のように、「赤」は様々なものについて使える。

オ　「赤」のような言葉は、日常よく用いる、誰でも知っている言葉なので、誰にでも幅広く通じる。

問五　空欄Ｂには「さっぱり」と対立する意味の擬態語が入る。ひらがな四文字で答えなさい。

問六　傍線部②「気をつけなければならないのは、言葉の目的は体験の代わりとなることではない」とあるが、なぜ気をつけなければならないのか。最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　体験は最も貴重なものであって、味を表現する言葉はそれに及ばないから。
イ　言葉は情報を伝達するものであり、体験は行為に基づくものであるから。
ウ　味を言葉で表現する人と、実際に体験をする人は、別々の人であるから。
エ　言葉は頭で考えるものであるのに対し、体験は身体が行うものであるから。
オ　味を表現した言葉を聞いても、味が実際に感じられるわけではないから。

問七　傍線部④「さまざまな言葉が使えるようになると、その分だけ多くの区別がつけられるようになるのだ」とあるが、次に示すチョコレートの宣伝コピーの中で、味を具体的に表現しているものとして、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人生はチョコレートの箱。開けてみないと分からない
イ　カカオの酸味とミルクのうまみが織りなす心地よいビター感
ウ　美と健康を考えた、高カカオポリフェノール
エ　一日一片のチョコレートは医者を寄せ付けない
オ　チョコレートで包めば乳酸菌は百倍届く

問八　傍線部⑥「なぜワインの香りを「猫のおしっこ」など嫌なものに喩えるのか」とあるが、なぜか。その理由を一〇〇字以内で説明しなさい（句読点を含む）。

（下書き用）

問九　次に示すのは、本文を読んだ人が書いたコメントである。本文の内容に合っているものには〇を、合っていないものには×を記しなさい。

ア　ソムリエが高級なワインを「猫のおしっこ」「濡れた犬」などと表現するというのは驚きですね。ラーメンもそのスープを「腐った骨」「ヘドロの海」などと表現すれば、その意外性から人気が出るのではないですか。

イ　私も、ネットの情報を調べて「鶏肉と鯛のだしでとったスープはあっさりしているけれどうま味があって、柚子の香りがさわやかで、細麺との相性は抜群」などというものを見ると、ぜひこの店に行って実際に食べてみようという気になります。

ウ　私は辛い物好きだからあちこちの辛いラーメンを食べに行くのだけど、その辛さもいろいろで、「エスニックでスパイシー」「辛さとしびれの中のうま味と甘味」などとメモしていると、それぞれの店の味の個性を思い出すことができます。

エ　確かに「濃厚で、コクがあって、口に入れてすぐコショウのにおいが鼻を抜け、後味の風味はすぐに消え……」などと言葉で表現されてもよくわかりませんよね。味は、やはり自分で食べて、自分の言葉で表現することがいちばん大事ですよね。

オ　ワインの仕事に携わる人にふさわしい言葉と、ワインを飲むだけの人にふさわしい言葉は違うのだということがわかりました。つまり、ラーメン店の宣伝文句と、食べに行った人たちの感想を述べた言葉は異なるということなんですね。

（二）次の文章は、絲山秋子の小説「雉始雊（きじはじめてなく）」の一節である。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

サネスケはわたしが散歩に出かけた後に起きるのです。家に戻れば朝食の支度が始まっています。

「冷凍ごはんが一つしかなかった。雑炊のひと。パンのひと」

わたしはパンのひとです。お正月は餅ばかり食べていたのでパンが欲しいのです。同じ理由でサネスケはお米がいいと言います。雑炊を作る前に分けておいた昨日の豚鍋のだしは、薄めてドッグフードにかけてやるとたぬ吉くんが喜びます。サネスケがベーコンエッグとサラダを作ってくれる間にたぬ吉くんもごはんを食べ終わり、わたしたちが朝ごはんにするころにはベランダの日なたでくるくる回って寝床を定めると脚を舐（な）め始めます。じきに毛布の上に丸くなって尻尾の方に鼻面をつっこんでぐっすり眠ることでしょう。

わたしたちはダイニングテーブルに向かい合って朝ごはんを食べます。

「昨夜、地震があったね」

サネスケはレンゲを置いて言いました。かれは猫舌なのでできたての雑炊を食べられないのです。

「気がつかなかった。何時頃？」

「十二時過ぎかな、揺れたよ」

「まだ仕事してたの」

「うん」

「ロミオは鳴いた？」

「鳴いた。今年初めて生存確認ができた」

ロミオというのは裏に住んでいる野生の雉。地震が来ると、揺れる前に「キキーッ、キキーッ」と、aケイカイの声で鳴きます。なぜロミオかと言うと、毎年春先になると、寝室の窓の下で求婚の歌を歌うからです。求婚の歌は、ケイカイ音とは違う「ケ！　ケーン」という声です。シェイクスピア（注1）の『ロミオとジュリエット』を知っていますか。恋人の家の窓の下に忍んでいって愛を語る、そのロミオに①ちなんでいます。

「ロミオって越してきたときにはもう住んでたよね。同じ鳥なのかな」

「子供の代かもしれないよ」

そう言いながらサネスケは調べ始めます。設計士という仕事柄なのかどうかは知らないけれど、気になったらすぐに調べないと気が済まないひとです。雉という鳥は地震のときも揺れる前に鳴きますし、朝も日の出のちょっと前に鳴くのですが、せっかちなところはサネスケと似ています。

「十年から五十年だって。大ざっぱだな雉の寿命」

「十年なら同じ鳥かもしれないね」

わたしたちが結婚してここに来たのは八年前ですから、それからのおつき合いということになるのかもしれません。でも、住んでいるのはロミオだけです。雉はちょっと変わった鳥で、お嫁さんがあちこちにいて、お嫁さんの方からロミオのところに訪ねてくるのです。

「非常食としても、長持ちだな」

サネスケは何かあったら雉を捕まえて食べるつもりなのです。わたしはいやだなあと思います。
「やめてよ。②名前つけた動物は食べられないんだよ」
「いざとなったら食うよ俺は。桃太郎だってそのつもりで連れてったに違いないんだ。まあ、猿は食えないけどさ。鬼ヶ島できびだんごが尽きたら最初にやられるのは雉、そのつぎは犬だろう」
「それじゃ、太郎が鬼みたいじゃない」
「じっさい、そうなんだ。内なる鬼が太郎のなかにいるんだよ」
「捕まえられるはずがないよ」
雉が走るのをみたことがありますか？　びっくりするほど走るのが速いのです。たぬ吉くんでも追いつけません。ましてや小太りのサネスケなんかに捕まるはずがありません。
「そこは知恵くらべだよ。飛べないだろ雉って」
「飛ぶよ！」
思わず大きな声になりました。こんなに近くに住んでいて、そんなことも知らないのかと思ったのです。
「へただけど飛ぶよ！　前に鳥の研究者の先生が『鳥だって飛びたくて飛んでるわけじゃない』って言ったけどあれほんとだと思う。やむを得ないときに飛ぶんだよ」
「うそ。それほんとにロミオ？」
「ロミオだってば。あぶなっかしかったけど、こないだなんか裏の小学校越えたんだよ」
でももう、仕事に出かけなければならない時間です。わたしはbアワただしくお化粧をし、その間にサネスケがテーブルと食器を片付け、ゴミ出しの準備をしました。二人とも出勤は車です。

仕事が終わると、買い物をして帰ります。cズイブン日の入りが遅くなりました。太陽が山の陰に隠れてからの明るい時間が長く感じられます。気温がすとんと下がります。昼間に激しく吹きつけた空っ風は完全に止んでいるので、街の中でもとても静かで、なんだか別の日のような気がするのです。今日はほうれん草が安かったので、ホタテ貝の紐と一緒にグラタンにしました。わたしは全然平気なんだけれど、うちにはシチューやグラタンは白いごはんと合わないと言って騒ぐひとがいるので、鶏を茹(ゆ)でてそのおだしとしめじでごはんを炊きます。海南鶏飯(ハイナンチーハン)といいます。
「昼はなんだったの」
できあがった鶏飯をよそいながら、サネスケが聞きます。そして私が答える前に「俺はなめこd蕎麦だった」と言います。
「とんかつ。そうそう、とんかつ屋で珍しいひとに会った」
「俺も知ってるひと？」
「映画祭のボランティアで一緒だったコシガヤさん」
「ああ、草木染めのコシガヤさんか。そりゃ珍しいね」
田舎ではよくあることですが、夫婦で共通の知り合いは多いのです。気の合いそうなひとがいるよ、と友達に紹介されたら、以前から知っているひとだったりします。
「たまたまカウンターで隣だったの。最初気がつかなかったんだけど、豚汁の蓋をちょっとだけ開けてね、まるで豚汁に挨拶してるみたいだなって思って顔見たらコシガヤさんだった」
「ほう」
「でもなんか恥ずかしいよね。③一人でとんかつ食べに行くときって、みなぎってるときだから」

「大盛頼んだときもそうかな。ていうか、あなたみなぎってたの？」
「午前中の会議がくだらなくてね。えいやっと思ってとんかつ食べに行ったの」
とんかつを食べると幸せな気分になりますが、④ちまちました気分のときは食べる気になりません。なにかを吹っ切りたいとか、希望を見いだしたいという強い気持ちがなければ、女一人でとんかつ屋に入れません。コシガヤさんにもきっと何か気合いを入れたい事情があったのでしょう。話はしなかったけれども目が合うとにやりと笑って、不思議な連帯感が生まれました。

「そういや、七十二候（しちじゅうにこう）で『雉始めて雊（な）く』っていうのがあるんだ」
サネスケは昼休みに調べたらしいのです。七十二候ってなんだっけ、と聞くと、ちょっと得意そうに教えてくれました。
昔の暦にある季節の節目で、春　A　とかｅ夏至という言葉なら聞いたことがあるでしょう？全部で二十四あるので、二十四節気（にじゅうしせっき）と言います。冬なら立冬や冬　B　、そして年が明けると小寒です。七十二候はそのさらに細かい分類です。実質五日間くらいのことだそうです。
「雉が鳴くって、いつなの？」
「ちょうど今頃だよ。今年は十五日から」
「じゃあ、道祖神の日（注2）だね」
「でもまだ雉なんて鳴かないよね」
「まだ早いよな」
少し黙って、それから二人同時にあっと思いました。
「　C　暦だから！」
「　D　暦だといつかな」と言いながら、サネスケは素早く確認しました。「三月初め。C 暦の一月十五日が三月二日だって」
「なら、あり得るね。三月なら鳴くよ」
地震のときに雉が鳴くことを知ったのは二〇一一年の震災の年でした。余震におびえた時期、人間だけじゃなくて鳥も怖いのだと思ったことを思い出します。そして、明け方の求婚の鳴き方とは違うこともそのときに覚えたのです。
七十二候は文章になっているので面白いですよ。「ぼたん花さく」とか、「つばめ去る」とか、「霜はじめて降る」とか。　E　ことがわかります。もしも興味があったら、一緒に調べてみましょうね。

ご両親の事故のこと、ほんとうに残念で悲しかったです。わたしにとって、あなたのお母さんは仲良しの大事な妹だったので今でも信じられない気持ちです。ごはんはちゃんと⑤食べられますか？　夜はぐっすり眠れますか？　つらい思いをされているところに、⑥こんなのんきな手紙で、呆れてしまったかもしれませんね。今日、この手紙を持っていくのはわたしたち夫婦はこんなところに住んでいて、およそこんな暮らしをしているよ、と伝えたかったからです。
のんびりで間が抜けているかもしれないけれど、よかったら一度、遊びにいらっしゃい。それで来年から田舎の中学校に通ってみてもいいなと思ったら、ずっとここにいていいんです。もちろん、大人になるまで住んだっていいんです。たぬ吉くんといっしょに、お待ちしています。

注

1　イギリスの劇作家・詩人（１５６４年―１６１６年）。

2　道祖神は、峠や辻・村境などの道端にあって悪霊を防いで行人を守る神。その道祖神を祭る道祖神祭の日。

問一　二重傍線部ａ～ｅについて、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二　傍線部①「ちなんで」、④「ちまちました」について、本文中の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①　ちなんで

ア　影響されて
イ　触発されて
ウ　あやかって
エ　似通って
オ　つながりを持って

④　ちまちました

ア　悲しくて、やるせない
イ　やる気がなくて、物憂い
ウ　鬱々として、沈みがちな
エ　ゆとりがなく、こせこせした
オ　腹立たしく、いらいらした

問三　傍線部②「名前つけた動物は食べられないんだよ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　名前をつけた動物は、食べるための動物ではなく、名前をつけた者にとっては、人生を共に生きるための大事な存在になるため。

イ　名前をつけた動物は、食料になる動物一般というものではなく、名前をつけた者にとっては、その存在を気にかけるような特別な存在となっているから。

ウ　動物に名前をつけることによって、名前をつけた者にとっては、食料としての動物から、ペットとして可愛がる存在に変化するため。

エ　名前をつけた動物は、他の動物と異なり、名前をつけた者にとって、かけがえのない大切な家族の一員となってしまうから。

オ　動物に名前をつけることによって、その動物は自分の人生とは無関係な存在から、その動物を世話し、保護する責任が生じるため。

問四　傍線部③「一人でとんかつ食べに行くときって、みなぎってるときだから」とあるが、それはどのようなときか。八〇字以内で説明しなさい（句読点も含む）。

（下書き用）

問五　空欄Ａ・Ｂに入る最も適当な漢字を、各々一文字で書きなさい。

問六　空欄Ｃ・Ｄに入る最も適当な漢字を、各々一文字で書きなさい。

問七　空欄Eに入る最も適当な表現を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　昔のひとはわたしたちと違って自然の脅威をよく知っていた
イ　昔のひとはわたしたちと違った視点で花や鳥を中心に生活していた
ウ　昔のひとはわたしたちと違って自然を擬人化して見ていた
エ　昔のひともわたしたちと同じように景色や花や動物を見ていた
オ　昔のひともわたしたちと同じように美しい花や愛らしい動物を好んでいた

問八　傍線部⑤「食べられますか」の「られ」と同じ用法を持つものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　なんとかして明日までに来られるか？
イ　また、容疑者に逃げられたのか？
ウ　最近、秋の気配が感じられるね。
エ　部長、今、社長が来られたようです。
オ　近所のおばさんに声をかけられた。

問九　傍線部⑥「こんなのんきな手紙」とあるが、それはどのような「手紙」か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　田舎暮らしをしているサネスケと「わたし」がのんびりと過ごす一日を通して、子どもが楽しく生活するのによい環境であることを伝えようとする手紙
イ　サネスケと「わたし」とたぬ吉くんの何気ない冬の一日を通して、自然と人間が共生する理想的な田舎暮らしの様子を伝えようとする手紙
ウ　ある日のサネスケと「わたし」のたわいもない会話や行動を通して、田舎暮らしの様子や夫婦の穏やかな日常の暮らしぶりを伝える手紙
エ　ある日のサネスケと「わたし」の愉快な会話や行動を通して、田舎暮らしをしている夫婦の仲の良さと共働きの生活の実情を伝える手紙
オ　ある日のサネスケと「わたし」の様々な事柄を追究する会話を通して、知的好奇心を満たすのによい環境であることを伝えようとする手紙

問十　本文の表現や構成についての説明として、適当なものには○を、適当でないものには×を記しなさい。

ア　「夜はぐっすり眠れますか？」など、事故で親を亡くした妹の子どもを気遣う表現や「七十二候は文章になっているので面白いですよ。」など、小学生の興味を誘うような表現を用いて、妹の子どもへの細やかな愛情が示されている。

イ　夫婦の会話は、雉の生態について、昔話の解釈について、ジェンダー問題について、季節の区分についてと展開していき、一見ユーモラスに見える会話の中に、現代社会の抱える重要な問題を散見させる構成となっている。

ウ　「わたしはいやだなあと思います。」、「そんなことも知らないのかと思った」、「シチューやグラタンは白いごはんと合わないと言って騒ぐひとがいる」などの表現により、夫婦の間には大きな溝があることを示している。

エ　朝食から夕食にかけての取るに足りない夫婦の一日を描いた後で、それが事故で親を亡くした妹の子どもへの手紙であることが示され、読者は夫婦の日常に表わされた安らかさの意義を感じ取る構成となっている。

オ　「シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を知っていますか。」や「もしも興味があったら、一緒に調べてみましょうね。」などの表現は、一緒に暮らすことになる妹の子どもに対して、教育的な配慮もしたいという気構えを示すものとなっている。

(三) 次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

①アルバイトも勉強も遊びも全力でこなす彼女は（　　）にあふれている。
ア　スタミナ　イ　ダイナミック　ウ　オールマイティ　エ　バイタリティ

②あまりにあきれて（　　）が継げなかった。
ア　絶句　イ　下の句　ウ　二の句　エ　挙句

③彼の登場はにわかに世間の（　　）を驚かせた。
ア　目鼻　イ　耳目　ウ　眼光　エ　心眼

④そんな重要なことは、私の（　　）では決められません。
ア　一存　イ　一概　ウ　一見　エ　一丸

⑤その少年は、広い部屋にひとり（　　）とさびしげに座っていた。
ア　たじたじ　イ　のうのう　ウ　つくねん　エ　しゃあしゃあ

⑥画家や文人が本名以外に付ける風流な名前のことを（　　）という。
ア　芸名　イ　俳号　ウ　尊号　エ　雅号

⑦今まで書いたことのない小説ジャンルにようやくあの作家も筆を（　　）。
ア　染めた　イ　揮(ふる)った　ウ　走らせた　エ　擱(お)いた

⑧戦争の辛い記憶は簡単に（　　）することはない。
ア　変成　イ　転化　ウ　風化　エ　流動

⑨お客様が（　　）、玄関でお出迎えしましょう。
ア　参ったら　イ　お見えになったら　ウ　お越しになられたら
エ　うかがわれたら

⑩「思い立ったが（　　）」というから、早速今日から始めようよ。
ア　友引　イ　吉日　ウ　善行　エ　即日